



大宮西中学校は創立50周年を迎えます
～つないできた 愛 これからもずっと～

藤花だより

令和6年度5月号
令和6年4月26日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「ロールモデル」 ～志を語れる大人に～

校長 森角 由希子

5月のさわやかな風に白やピンクのハナミズキの花がゆれています。出勤途中の紅白の花道は何とも鮮やかで、心が豊かになる風景です。

さて、私がさいたま市長期派遣研修生として、当時お世話になった大学の先生から「何も経験がない生徒が音楽をゼロから生み出すことは難しいのです。音楽は、“はじめに模倣ありき”です。」との趣旨の御指導をいただいたことがありました。これは、私が取り組んでいた授業研究の中で、生徒が未経験の題材（声明【しょうみょう】※日本の声楽曲の源流 僧侶が唱える声楽全般を指す言葉）を取り上げた際に、自由な発想を促そうと、授業の流れを組み立てたときにいただいた言葉です。しばし音楽の演奏では「自分らしい（個性的な）演奏をする」ことに重きがおかれ、「模倣ありき」という言葉と相反するよう見えます。しかし、「はじめに模倣ありき」という言葉は、単に他の人の「まね」をして演奏しなさいということではありません。

例えば、「模倣」という言葉を学校教育に当てはめて考えてみましょう。音楽に限らず、スポーツでも、勉強でも、あるいは伝統的な工芸品作りでも、質の高い芸術や卓越した技能、練習や勉強の仕方など、「これはすごい！」と思える人をまねし続けることにより、実力が身に付いていきます。しかも、その尊敬する人のレベルが高ければ高いほど、またその人に対する思いが強ければ強いほど、身に付いた力は大きくなります。これが模倣です。しかし、この模倣は単なる「ものまね」ではありません。なぜなら、精一杯取り組んだ模倣にはその人なりの考えや、やり方が加わるからです。つまり、一生懸命模倣し、続けることで大切な基本が身に付き、応用力が備わり、その人らしさが発揮されるようになるのです。だからこそ、質の高い何かを見付け、模倣し続けることが大切なのです。さらに質の高い模倣は質の高い人間性も育てます。正反対に、人として望ましくないことを模倣し続けると、決して理想的とは言えない性格や習慣として身に染みついてしまいます。だからこそ何が自分にとって有用なのかを見極め、質の高い模倣をし続けることが大切なのです。

こども・若者が幸せな状態（Well-being）で成長していくためには、全ての子ども・若者に等しく開かれた居場所や、取り残されがちなこども・若者を包み込む居場所など、多様な居場所のある社会を、こども・若者・子育て当事者の視点に立って構築していくことが重要であるといわれています。さらに、「多様な人と出会える、繋がりをつくれること」「自分のロールモデルとなる大人を見つけられると良い」といった調査結果（こどもの居場所づくりに関する調査研究 報告書 令和5年3月 内閣官房 こども家庭庁設立準備室より）もあります。

質の高い模倣のモデルは、歴史的な人物、様々な分野で活躍する著名人がいると思いますが、まずは、教師同士が手を取り合って、保護者や地域の皆様とタッグを組み、生徒の成長のために子どもたちのよきロールモデル（大人が自分の志を示せるように）となれるよう、取り組んでいける学校でありたいと願っています。

